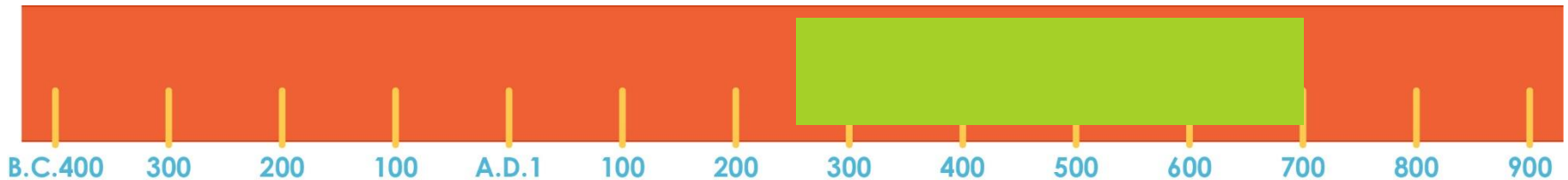


第 I 部 原始・古代
第 1 章 日本文化のあけぼの
3 古墳とヤマト政権 3

教科書 P.29～33

今回の学習範囲

1. 古墳時代の人びとの生活
2. 古墳の終末
3. ヤマト政権と政治制度



1 土器と衣服

朝鮮半島伝来の技術で土器の質が向上した。人物埴輪から人びとが着ていた衣服を知ることができる。

土 器

土師器

弥生土器の系譜を引く。赤焼き

須恵器

5世紀に朝鮮半島伝来の技術。硬質で灰色

衣 服

男性

衣 + 乗馬**ズボン**風の**袴(はかま)**

女性

衣 + **スカート**風の**裳(も)**

1. 古墳時代に形成された日本人の春秋の農耕儀礼、八百万の神々、今も残る呪術的な風習と今は残っていない呪術的風習について、簡潔に説明しなさい。

①春秋の農耕儀礼

②八百万の神々

③今も残る呪術的風習

④今は残っていない呪術的風習

2 祭祀と呪術的風習 人びとは農耕儀礼や祭祀を大切にし、呪術的な風習もおこなわれた。

① 農耕儀礼

平安時代…室町時代

春 **祈年(としごい)の祭**：豊作を祈る。 → 田楽能狂言
秋 **新嘗(にいなめ)の祭**：収穫に感謝する。 → 猿楽

② 祭祀…八百万(やおよろず)の神々をお祀りすること。

- ㊦ 神奈備山(円錐形の山)、大樹、大岩、孤島など、周囲とは何か違う自然に神が宿ると考え、お祀りした。
- ㊧ **氏神**(氏の祖先神)の祭祀。

③ 呪術的風習

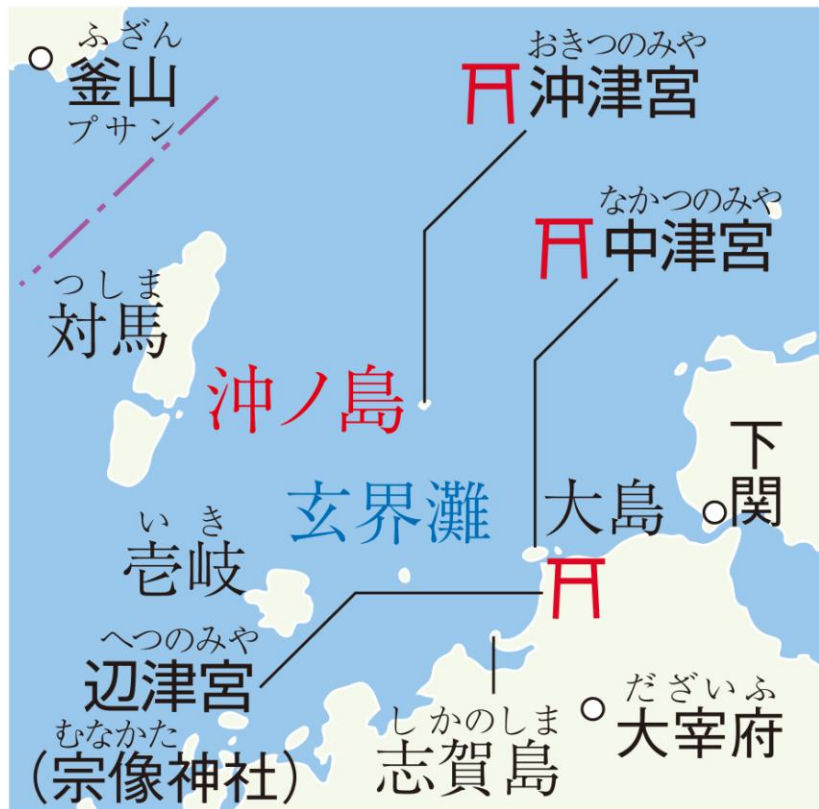
- ㊦ **禊(みそぎ)・祓(はらえ)**：身を清め、けがれを祓う。
- ㊧ **太占(ふとまに)の法**：鹿の骨を焼いて吉凶を占う。
- ㊨ **盟神探湯(くがたち)**：熱湯に手を入れさせ、火傷の有無で真偽を判断する神判。

3 祭祀遺跡と神社 古墳時代以来の祭祀が続く祭祀遺跡や、現在も残る神社につながるものも少なくない。

宗像大社の
(むなかた)
沖津宮

福岡
県

玄界灘の孤島沖ノ島を神体とし、**海神をまつる**沖ノ島は出土品の貴重さ、豊富さから「**海の正倉院**」と呼ばれる





もつとも古い神社
大神(おおみわ)大社



神奈備の山



▲ 14. 優美な姿を見せる三輪山

山そのものが ご神体！



▲ 23. 山ノ神遺跡



鎮魂詞
いのりのことば
さきみたま
幸魂
くしみたま
奇魂
さきはへたま
守給へ幸給へ
まもりたま
さきはへたま
三輪の神様にはご祈念のあと
右のいのりの詞を三回お唱え下さい

**死んだ子どもは
母の胎内へ返す。**



5. 土器棺を使った埋葬例 芝遺跡出土 弥生時代中期

**他にもいろいろある
呪術的風習
～死者への祈り～**



**赤色は
魔除け**



▲ 37. 双築1号墳の埋葬施設
古墳時代前期

豊作、多産、安産の祈り



▲ 40. 袈裟襷文銅鐸 大福遺跡出土
弥生時代後期 高さ 44.7cm 最大幅 25.9cm



▲ 25. 芝遺跡出土の子持勾玉
古墳時代中期
全長 8.1cm 厚み 2.2cm



▲ 42. 犬形土製品
磐余遺跡群出土 安土桃山時代
全長 6cm 幅 3cm 高さ 5cm

勾玉 犬

災いを避ける祈り



▲ 9. 木製の人形 吉備道跡出土 奈良時代
全長142cm 幅28cm

人形



▲ 11. 園池遺構から出土した檜柳と木製品
上之宮遺跡 飛鳥時代



▲ 4. 土馬 飛鳥～奈良時代
左下は中由2号墳出土。それ以外は桜井公園道跡群出土

土馬

櫛

▶ 10. 現代の紙製の人形

人形に名前・生年月日を記入し、人形で自分の肩を撫で、息を三回吹きかけます。車形は車のナンバーを記入します。

2. 「氏姓制度」について、次の語句を説明しなさい。

- ①「氏」
- ②「姓」
- ③「臣」
- ④「連」
- ⑤「伴造」
- ⑥「部民」
- ⑦「君・直」

3. 大王と豪族の土地と人民支配について、語句を説明しなさい。

- ①屯倉
- ②田部
- ③名代・子代の民
- ④田荘
- ⑤部曲

1 前方後円墳の造営停止

6世紀から7世紀はじめになると、大王は、各地の有力な首長たちが前方後円墳を造営することを禁じた。

後期～終末期古墳のあり方の
変化

ヤマト政権の性格の変化

近畿以外の地域で、巨大な前方後円墳がみられなくなる

群集墳の爆発的増加
||
有力農民層も古墳を築造

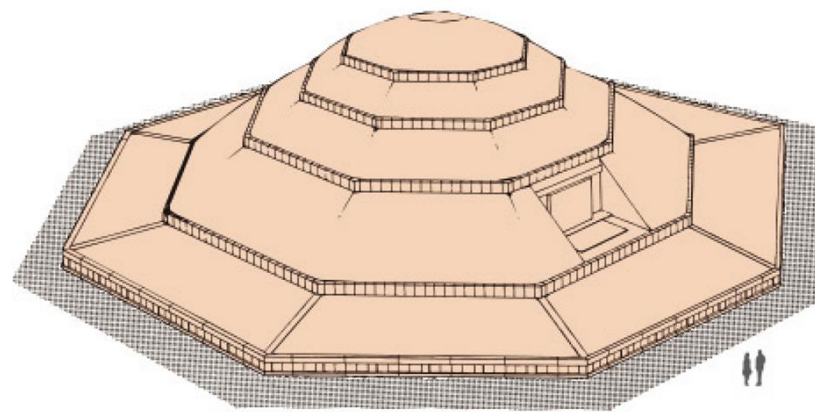
各地の豪族が連合して政権をつくる形 → **大王を中心とした勢力に各地の豪族・有力農民層が服属する形へ**

2 終末期古墳 前方後円墳の造営が停止されても、古墳の造営は100年ほど続いた。考古学ではこの時期を**古墳時代終末期**と呼んでいる。

首長層：大型の方墳や円墳を営む(7世紀末には停止)

大王：**八角墳**を営む(7世紀中頃)

→ **一般の豪族層を超越した存在であることを示す**



天武・持統天皇の合葬陵
とされる。7世紀後半築造。

野口王墓古墳(天武・持統合葬陵)と復元想像図

1 氏姓制度 5・6世紀にヤマト政権は豪族を血縁にもとづく同族集団の(ア.氏)に編成し、氏単位に政治的地位と職掌に応じた(イ.姓)を与えた。

氏 支配者層に特有のもの
・ **王から、ヤマトグループの一員に与えられた族名**

・ 祖先の系譜けいふを同じくする集団の**親族組織**

本拠地名を氏の名とする

かずらき へぐり そが
葛城・平群・蘇我

職業名を氏の名とする

もののべ おおとも なかとみ かしわで
物部・大伴・中臣・膳

※氏姓制度は、百済の制度をまねたもの

姓 大王により政治的地位と職掌しよくに応じて与えられた**称号**

おみ
臣 → ヤマト地方の有力氏

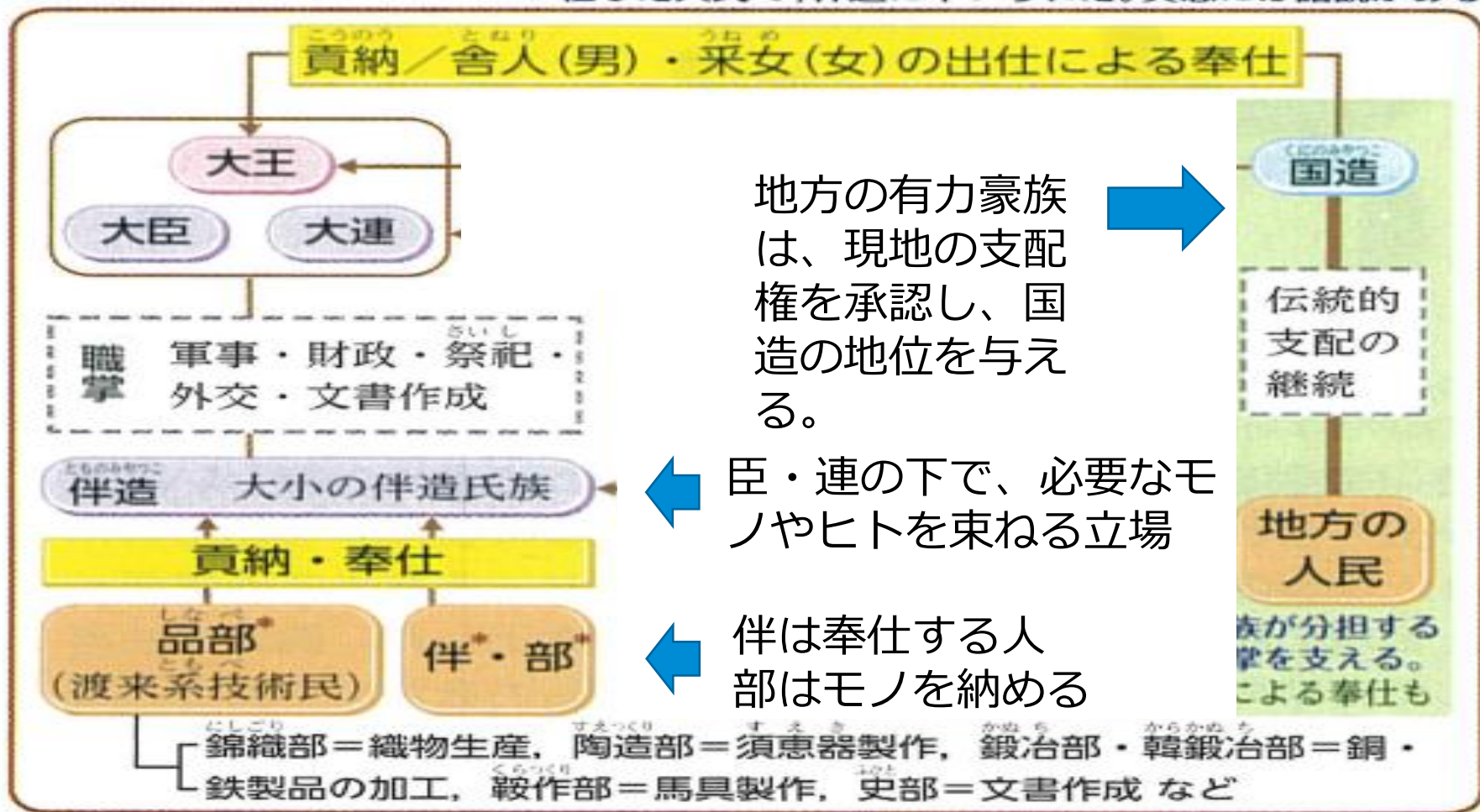
むらじ
連 → 職掌を氏の名とする有力氏

きみ
君 → 有力な地方豪族

あたえ
直 → 地方豪族

2 政治制度

中央の政治は**大臣・大連**が中枢を担い、（ウ.**伴造**）が職掌を分担した。地方豪族は（工.**国造**）や県主（あがためし）に任命された。支配層は**私有地と私有民**を所有した。

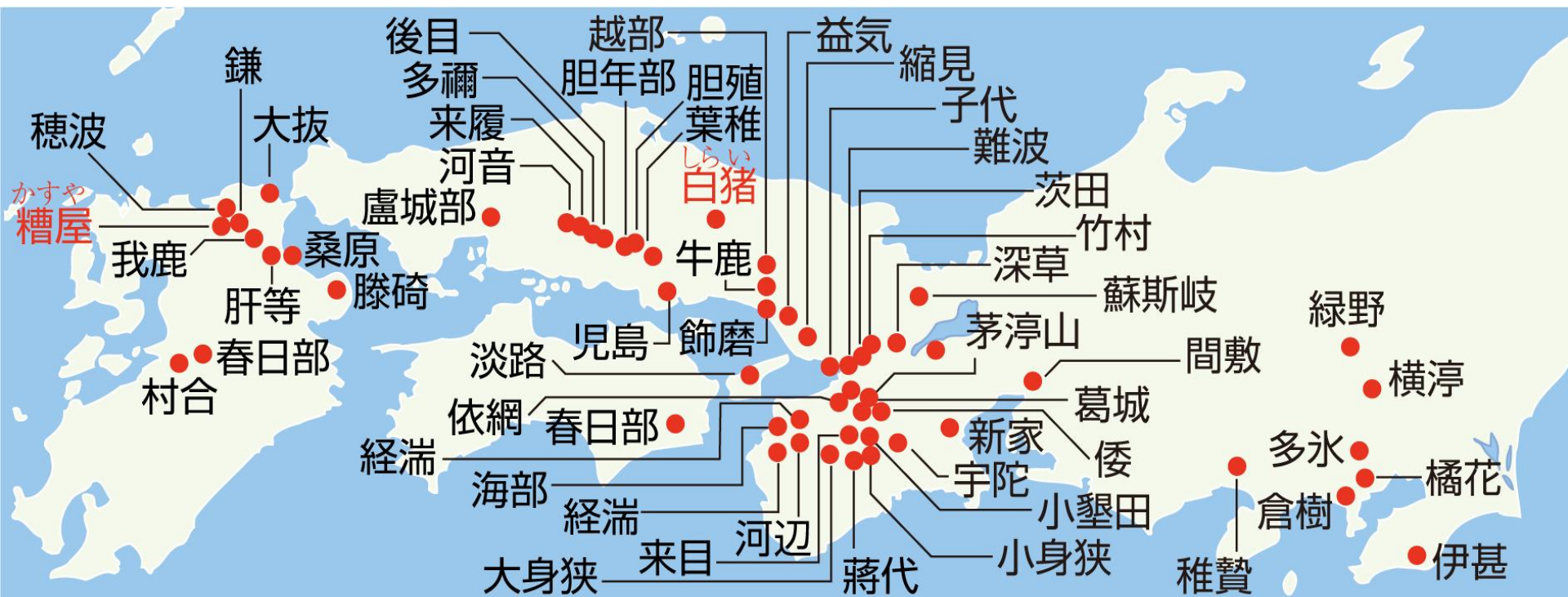


3 大王権力の拡大と抵抗

ヤマト政権は、新羅と結んだ527年の(オ.筑紫国造磐井)の乱などの抵抗を排しながら地方豪族を従属させ、直轄領(カ.屯倉)や直轄民を各地に設けた。

耕作民→田部、奉仕民→名代・子代の民

屯倉の分布 ●



豪族の私有地 = 田荘 (たどころ)、私有民 = 部曲 (かきべ)

まとめと振り返り

1. 古墳時代の人びとの生活

居住域の違いから豪族と民衆の生活の分離がうかがえる。また、土器の製作に朝鮮半島の影響がみられる。人びとは農耕儀礼や祭祀を大切にし、呪術的な風習もおこなわれた。

2. 古墳の終末

前方後円墳の造営停止、大王墓の八角墳化、有力首長層の古墳造営の停止は、中国情勢を背景としたヤマト政権の中央集権国家形成への動きに対応する。

3. ヤマト政権と政治制度

5・6世紀にヤマト政権は、氏姓制度などの仕組みを整えるとともに、地方豪族の抵抗を排しながら地方支配を強化していった。